

[山陰地方消費動向調査（平成 29 年 11 月調査）]

## 暮らし向きは 3 年連続でやや改善 先行きは慎重な見通し

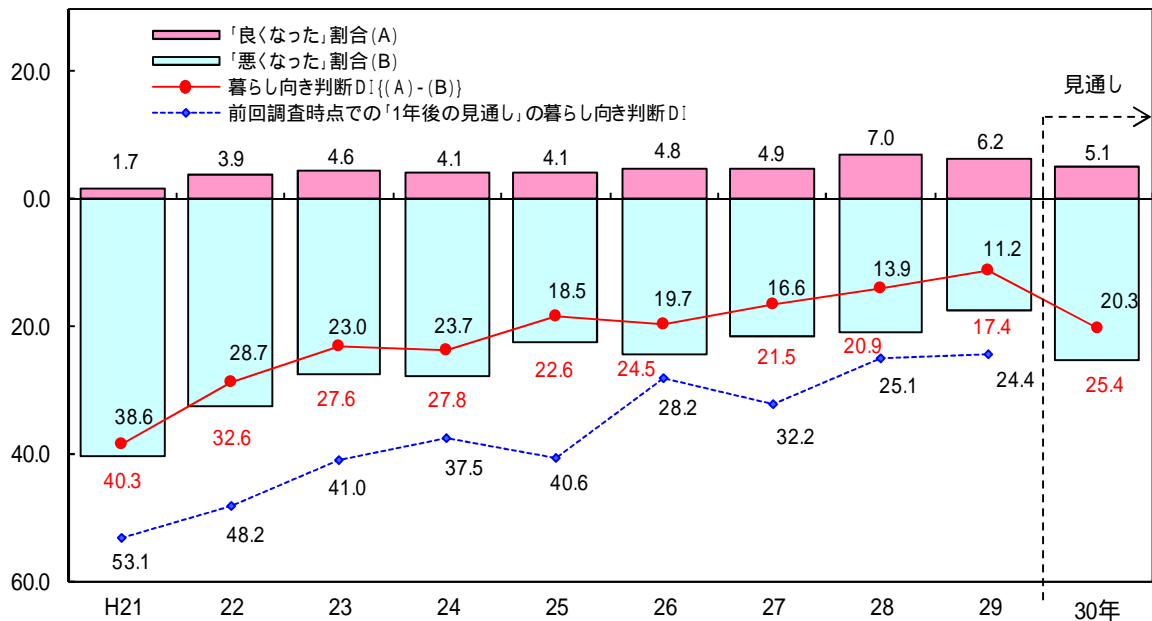
～ 所得環境の改善を背景に、消費姿勢に一部前向きな変化も～

当研究所では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（29 年 11 月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1 年前に比べて「良くなった」が 6.2%、「悪くなった」が 17.4%となり、「暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）」は前回調査比 2.7 ポイント増の 11.2 と、3 年連続でやや改善した。

一方、先行き（30 年）の「暮らし向き判断 D I」は、9.1 ポイント減の 20.3 と足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

図表 1. 暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）の推移



例：平成 29 年の 24.4 は、28 年 11 月時点での「1 年後（29 年）の暮らし向き判断 D I」を示す。

### 【調査要領】

1. 期 間 平成 29 年 11 月 1 日～11 月 17 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の男女
3. 調 査 方 法 山陰合同銀行の山陰両県内本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布、店頭および返信用封筒にて回収
4. 回 答 数 配布数 2,450 枚 有効回答数 558 枚（回収率 22.8%）
5. 回答者構成比 10・20 代 9.7%、30 代 19.9%、40 代 33.3%、50 代以上 36.7%、不明 0.4%

## 〔調査結果の概要〕

### 1．暮らし向き

足元(29年11月)の「暮らし向き判断D I」は前回調査比2.7ポイント増の11.2と、3年連続でやや改善した。先行き(30年)は20.3と、足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

### 2．総収入の動向

「総収入判断D I」は前回調査比6.1ポイント増の9.0と、前回調査から改善した。全体としては2年連続での改善となり、改善幅も拡大した。

### 3．消費生活の動向

「消費支出額判断D I」は前回調査比2.7ポイント減の30.8と、2年連続で前回調査を下回った。

消費生活の水準(満足度)はやや改善した。

### 4．今後の家計の重点

堅実姿勢は依然続き、「貯蓄の充実」、「節約重視」などが上位となった。

前回調査と比較して、「食生活の向上」や「レジャー・娯楽」など、一部では消費に前向きな姿勢もみられた。

### 5．家計支出の動向

この1年間で支出が増えた費目では、「食料・外食費」が最も高い回答割合となった。一方、支出が減った費目では、「旅行・レジャー・娯楽費」が最も高い回答割合となった。

今後1年間で支出を増やしたい費目では、「旅行・レジャー・娯楽費」が最も高い回答割合となった。一方、支出を減らしたい費目では、「水道・光熱費」が最も高い回答割合となった。

### 6．貯蓄動向

全体では、「増加した」が「減少した」をやや上回った。

貯蓄残高は『300万円未満』が4割以上を占めた。

### 7．雇用に対する不安

すべての年代で、雇用への不安が低下した。

### 8．ネット通販サービスの利用状況について

利用頻度は「月1~2回」が最多となった。

地元の店舗における購入頻度が特に減少した品目は、「衣類」、「雑貨・日用品」が上位を占めた。